

# 御案内

本会第一一四回大会を次のように開きます。ふるって御参加下さい。

## 記

- 一期日 二〇一六年十一月二日(土)・三日(日)
- 一場所 東京大学(本郷)
- 一 公開シンポジウム「水中遺跡の歴史学」  
法文二号館一番大教室(十一月二日 午後一時)

司会  
趣旨説明  
報告

榎原雅治・佐藤信  
佐藤 信

日本における水中遺跡調査研究の現況

——松浦市鷹島海底遺跡における元軍船の調査研究を中心に——

沈没船遺跡と国外におけるその研究

アジアの水中遺跡をめぐって

日本における水中遺跡の保護

コメント

海上の遺、海底の船

水中遺跡と歴史学研究

小討議

池田 榮史  
木村 淳  
森 達也  
水ノ江和同  
村井 章介  
石橋 崇雄  
榎原 雅治

一 第三回史学会賞授賞式 法文二号館一番大教室(十一月二日 午後五時一五分)

一 総会 法文二号館一番大教室(十一月二日 午後五時四〇分)

一 懇親会 山上会館地下会議室(十一月二日 午後六時三〇分)

会費三〇〇〇円

立食形式です。お気軽にご参集下さい。

一 一部会 (十一月三日)——詳細は別紙を参照——

日本史部会

古代史部会 法文二号館一番大教室

研究発表 午前九時三〇分

中世史部会 法文二号館一番大教室

研究発表 午後一時

近世史部会 法文一号館二六番教室

研究発表 午前一〇時一五分

シンポジウム「江戸幕府の地域支配」午後一時一五分

近現代史部会 法文二号館二番大教室

研究発表 午前九時三〇分

シンポジウム「二〇世紀日本の「防災」」午後二時

東洋史部会 法文一号館一三番教室 研究発表 午前九時三〇分

西洋史部会 法文一号館二五番教室 研究発表 午前一〇時

二〇一六年九月二〇日

各位

公益財団法人 史学会

部会プログラム

日本史部会

- 古代史部会 法文二号館一番大教室  
 研究発表表(午前九時三〇分〜一二時)  
 1 二造による地域支配体制  
 2 不比等の功封と光明子  
 3 古代の東北と国造制についての考察  
 4 古代日本における断罪権の所在  
 5 日本古代における服喪制度の変遷と穢観念  
 6 獄令1条の分析を通して  
 7 中世史部会 法文二号館一番大教室  
 研究発表表(午後一時〜四時三〇分)  
 1 平安期延暦寺の組織と僧団  
 2 平安鎌倉期建築空間の「仕切り」を考える  
 3 中世の葬送墓制にみる遺体観と靈魂観  
 4 九条道家の撰閣繼承構想とその変遷  
 5 五撰家分立の歴史的前提  
 6 戦国期における將軍権力の分裂と神社  
 7 勅使下向からみる後奈良天皇期の朝廷政務  
 8 近世史部会 法文二号館二番大教室  
 研究発表表(午前九時三〇分〜午後一時)  
 1 明治維新と水戸家の尼寺——永勝寺の正姫を事例に——  
 2 江戸幕府の恩赦制と寺院  
 3 近世社会における極光と民衆——明和七年の極光を中心として——  
 4 シンポジウム「江戸幕府の地域支配」(午後一時一五分〜五時一五分)  
 趣旨説明・司会  
 1 享保期の幕府裁許  
 2 幕府上方支配機構の転換  
 3 長崎奉行所における司法制度の改正過程

近現代史部会 法文二号館二番大教室

- 研究発表表(午前九時三〇分〜午後一時)  
 1 明治終期における民間造船企業の出発  
 2 都市計画法運用体制の再検討  
 3 航路という海洋政策と日本外交  
 4 日露戦後恐慌と政友会の自立化——第一次西園寺内閣期を中心に——  
 5 町内会・隣組・常会——東京市における準地方公共団体の創設——  
 6 戦後における「電力合理化」運動と電力技術政策  
 7 復員官事務調査部門、彼等の軌跡  
 8 シンポジウム「二〇世紀日本の「防災」」(午後二時〜五時三〇分)  
 趣旨説明  
 1 災害史から防災史へ——歴史学研究の可能性——  
 2 二〇世紀の警察と「防災」  
 3 昭和戦前期における警視庁と「国民消防」  
 4 「防災」に関する国際協力の成立  
 5 津波に関する専門知識の普及と「Tsunami」の国際化  
 コメント

ヤコビ・茉莉子  
北原系子・武村雅之

東洋史部会 法文二号館二番大教室

- 研究発表表(午前九時三〇分〜一二時三〇分)  
 1 劉琨一勳進表(四篇からみた西晋交替)  
 2 類書の発展から見る漢唐間文化の変容  
 3 唐のキルギス宛国書の発給順と撰文過程  
 4 ウイグル・キルギス交替期を中心に——  
 5 一七世紀後期における中国東南沿海の硫黄貿易・採掘とその禁制  
 6 近世インド洋海域世界の港市スラットにおける現地商人船舶の動向  
 7 出入港船舶記録の分析——一六四六〜一七四一年——  
 8 清代検験の「機能」に関する一考察——一八世紀乾隆年間を中心に——  
 9 ムハンマド・アリー占領期のアレクサンドリアにおける地方行政改革の前提  
 10 一八六〇年代における夷務の担い手について  
 11 地方大官を繞る調整とその変質  
 12 一八六〇年代後半における災害救済と地域社会  
 13 清末新疆省財政の成立過程  
 14 オスマン語新聞からみる「ブルガリア」独立問題(一九〇八〜一九〇九)  
 15 清領時代後期における幕閣の展開過程  
 16 清領時代後期における幕閣の展開過程におけるソ連要因の検討  
 17 トラウトマン工作の展開過程におけるソ連要因の検討  
 18 中ソ不可侵条約と共同防共要求との関連を中心に——

西洋史部会 法文二号館二番大教室

- 研究発表表(午前一時〜二時)  
 1 ホロイ、ヘクテ、モロイおよびセイサクテイア  
 2 研究動向三〇年の歩み  
 3 「不名誉な」存在としての剣闘士——墓碑にみる差別の実態——  
 4 オットー大帝期北イタリアにおける規範の一般性に関する文書発給者の認識  
 5 Capitulare Veroneseの分析から——  
 6 テオドロス・メトキテスの登用経緯を巡って——アンドロニコス二世の小アジ  
 7 ア視察事業と一三世紀末ビザンツ帝国の危機——  
 8 一八世紀トスカナにおける絹織物工業保護  
 9 近世イタリア都市工業と啓蒙改革  
 10 一八六〇年代中国海域における海賊鎮圧のための「国際協力体制」の再検討  
 11 欧米海軍の個別的動向と、清朝「自強運動」をめぐる英清外交交渉との  
 12 関連で——  
 13 ウスタシャ青年団を巡る「民族知識人」のナショナルリズム  
 14 クロアチア独立国における教育者団体の言説に注目して——  
 15 ドイツとオーストリアの合邦推進団体における「文化共同体」理念  
 16 一九二〇年代後半から一九三三年までを中心に——

溝中口 優樹  
 垣田 健志  
 永井 瑞枝  
 小池 美咲  
 泰地 翔大  
 島津 和夫  
 萬井 貴彦  
 佐藤 康裕  
 上嶋 裕  
 具知 会  
 下田 清美  
 岩橋 桃子  
 牧原 成征  
 宮原 一  
 小倉 啓明  
 安高 宗郎  
 賀木 申杰  
 鈴木 智行  
 吉田 ますみ  
 伊藤 陽平  
 白木 涼子  
 佐竹 康扶  
 中立 悠紀  
 土田 宏成  
 吉田 律人  
 高澤 俊輔  
 高岸 牙佳  
 板橋 暁子  
 付 晨  
 齊 会君  
 李 侑儒  
 澤村 り子  
 嘉藤 慎作  
 多々良 圭介  
 藻谷 悠介  
 早丸 一真  
 村田 遼平  
 上出 遼太郎  
 永島 歩  
 土肥 歩  
 陳 怡臻  
 松本 和久  
 伊藤 正  
 阿部 衛  
 柴田 隆功  
 佐野 大起  
 大西 克典  
 小風 尚樹  
 門間 卓也  
 長沢 優子